

多摩市のみらいづくりワークショップ開催結果（概要）

1. 趣旨

第3期基本計画の「基盤となる考え方」である「健幸まちづくり」をさらに推進していくために、重点的に取り組んでいく3つの重点課題（①超高齢社会への挑戦、②若者・子育て世代が幸せに暮らせるまちの基盤づくり、③市民・地域と行政との新たな協働のしくみづくり）をテーマとして、必要な取り組みや私たちにできること（⇒計画本編に反映）について、市民の皆さんの目線で、自由に議論していただく。

2. 開催概要

- (1) 開催日時 平成31年1月19日（土）10時～12時30分
- (2) 開催場所 パルテノン多摩 第一会議室
- (3) 参加者の募集方法 多摩市住民基本台帳に記載されている18歳から79歳の無作為で抽出された2,000人の市民および本年度8月に実施した「総合計画改定市民ワークショップ」で参加意向を示した26名に対して、参加依頼文を発送した。
- (4) 参加者属性 人数：39名（参加申込数：44名）
※男性：25名／女性：14名、平均年齢：49.1歳
- (5) 当日のスケジュール

時間	プログラム
9:40	開場
10:00	開会
10:00	1. 開会挨拶
10:05	2. 趣旨説明
10:10	3. 「重点課題」・「重点課題解決に向けた視点」について
10:25	4. ワークショップ 【ワールドカフェ】 ※休憩時間も含む ・進め方の説明（15分） ・第1ラウンド～第3ラウンド（9グループ・各20分） ・全体発表、まとめ（35分）
12:25	5. 閉会挨拶
12:30	閉会

(6) 対話の視点

「重点課題」を解決し、多摩市の未来をつくっていくためには、「誰が何をどのように」進めるべきか？

①市が取り組むべきこと、またその進め方は？

②市民の皆さんができることは？

※「市民ができること」に該当する意見を
網掛けで表記しています。

3. 結果（グループ別発表 議事録）

■A グループ（重点課題 1. 超高齢社会への挑戦）

①だれもがいきいきと生活できるための健康づくり活動の支援

②介護予防・フレイル（虚弱）予防のさらなる充実

結論は、やはり健康でなければいけないので、それはどうすれば良いかということで、**個人でできる健康管理をしていかなければなりません。**その中で言えるのは、食事と睡眠と運動ということが言えると思います。一番いけないことは、自宅の中にずっと一人にいるような、誰とも接しないような感じで孤独になってしまうことです。こうなってしまうと、認知症や介護の世話になってしまうのではないかと考えています。そうならないためにどうしたら良いのか、やはり**色々な地域社会のコミュニティに属することがすごく良い**と思います。**形式ばらず非常にハードルの低い取り組みからでも良いので、いろんな方と話して、適度な運動をするということが一番健康に繋がる**のではないかと考えています。行政の方でお願いしたいこととしては、他人と接する機会がなかなかない方も沢山いらっしゃると思うので、そういったコミュニティに参加できるような形で後押ししてくれるような組織をつくっていただくともみなさん参加しやすくなるのではないかと考えています。そうになると、健康で人生を終えられるのではないかとというような結論となりました。

■B グループ（重点課題 1. 超高齢社会への挑戦）

③地域医療・介護体制を支える仕組みづくり

④高齢者の居場所づくりと地域における支援体制の充実

まず、「高齢者の居場所づくりと地域における支援体制の充実」ですが、高齢者の居場所づくりというところで、今現在、超高齢社会とは言っても、元気な高齢者が多いと思っています。医療もしっかりしていますし、退職後も働ける元気な高齢者も大勢いて、実際にまだまだやりがいを持って色々やりたいという気持ちを持っておられる方が多いということを知りましたので、まずはそういった方々の活動の場を設けてあげた方が良いのではないかと話が出ています。一部、そういったボランティアの場なども設けられていると思うのですが、まだまだどこで何をやっているか、などの情報が受け取れないため、まず情報発信の仕組みを広げていただきたいという話が多く出てきました。

あと、「地域医療・介護体制を支える仕組みづくり」では、ここも同じ結論にはなるのですが、地域で医療を受けたい方、介護の支援を受けたい方々が、どこに何を言って良いのかわからないので、いろいろと支援をしてほしいけれど、まずは支援の要望を言える場所がほしいという意見が出ています。そういった場に支援をしていただきたい方がエントリーして、エントリーした方に対して、高齢者の方々やまだまだ元気な方々が応えていくというような場が設けられると良いのではないかと出ています。ほとんどが要望ばかりで、こうしてほしい、ああしてほしいという意見がほとんどですが、**その中で市民ができることと言えば、市でつくってもらった HP などの募集に対して応えていくことが市民としての努力と言いますか、活動なのではないかと思っています。**そういった中で市民としてもサークルなどをつくって、市の HP などで、こういうことをしますというような募集を広く公開していただいて、そこに市民から応えていただくというような場所が設けられると良いという話になりました。

■Cグループ（重点課題1. 超高齢社会への挑戦）

⑤だれもが安心して外出することができるための交通体系・交通環境の充実

⑥だれもが安心して住み続けられるための住み替え・居住支援

「だれもが安心して外出することができるための交通体系・交通環境の充実」とありまして、非常に声が大きかった意見が、カーシェアの場所をもっと増やすということと、自転車を自由に使えるコミュニティサイクル、モノレールを充実させてほしいということです。モノレールは、ずっと町田まで延伸という話が出ていますけれども、ぜひもっとプッシュして、市で頑張って町田まで延ばしてほしいことと、モノレールをもっと利用できるように安くしてほしいということです。

「だれもが安心して住み続けられるための住み替え・居住支援」というのは、高齢者向けのサービスについての意見が多かったです。生活をしていく上で、これからはインターネットを利用できた方が良いのではないかと。なかなか昔みたいに団地に商店街もなくなって、食料を近くで買うところもなくなってきていることもあり、今はインターネットで食料を買えたりもできるので、そのためにもインターネットを活用できるように支援をしていくことが大事なのではないかということと、**医療機関と高齢者との連携や見守り、商店街の活性化**というのはなかなか難しいかもしれませんが、そういう声も出ていました。

■Dグループ（重点課題2. 若者世代・子育て世代が幸せに暮らせるまちの基盤づくり）

①子育てがしやすいと思える保育・教育環境の充実

②市独自の子ども・子育て支援や教育の推進

まず、保育の充実という部分でけっこう話が挙がりまして、少子化ではありますけれど、まだ保育園の待機児童が多いのではないかとということや、保育の施設を多く作ってほしいということ、保育モデルの地域をつくってみたいかどうかということが挙がりました。また、今も昔もあると思いますが、いじめの対策の問題もありまして、いじめの相談窓口をもっと相談しやすい窓口がきたら良いのではないかと思います。あとは、地域交流というものが3ラウンドを通して挙がっていきまして、やはり子ども同士でも地域交流に関わりもありますし、高齢者の方とも関われるイベントを市の方でやってもらったり、**市民ができることとして、声かけをすることで地域交流が盛んになっていじめの問題も解決に向かっていくのではないかと**ということでも話し合っています。

「市独自の子ども・子育て支援や教育の推進」では、英語教育の充実というところで、教える側への指導や支援、外国籍の方たちの言葉の生活の指導や支援があると、先ほどのいじめの問題であったり、いろんな地域交流が盛んになるのではないかと意見が出ました。また、スポーツチームが多摩市にはあるのですが、少子化で減少してきています。お金の負担がチームにはありまして、運営も難しくなっている部分で、子どもたちも入り辛くなってきているのもあるのではないかとと思うので、市の方でも頑張っていただければと思います。**来年、オリンピックも多摩市に来ますので、市民で応援しに行ったりして、居たくなるようなまちにみんなであれば良いのではないかと**という話になりました。

■E グループ（重点課題 2. 若者世代・子育て世代が幸せに暮らせるまちの基盤づくり）

③支援を必要とする子ども・若者へのサポート・体制づくり

④子育て世代にやさしい都市基盤の維持・向上

「支援を必要とする子ども・若者へのサポート・体制づくり」というのが重要課題として挙げられていますが、この課題に対してグループで出た意見としては、支援を必要とされている方が市役所に対していろいろ申請や手続きをしなければいけないそうなのですが、その時に、こちらの窓口ではなくあちらに行ってくださいなど、たらい回しにされてしまうので、支援を受ける側が受けやすいように窓口を一つにするなど、受けやすくサポート体制を整えてほしいという意見が出ました。市民としては、支援を必要とする子ども等には自分から助けを求められない方もいらっしゃるのでは、それは、市民自身が気付いてあげられるように気をつけてあげることが必要ではないかという意見が出てきました。

「子育て世代にやさしい都市基盤の維持・向上」というところでは、今、高齢者の方に対して、条件はあるそうですが、お弁当の支給などを市がサポートしているようですが、それを高齢者だけでなく支援を必要としている方、例えば産後に実家が遠く離れているので支援が受けられない、手伝ってもらえる人が近くにいないという方等に対しても、お弁当のサポートをしたり、怪我で身動きがとれないけれども一人暮らしで大変だとか、そういう方、本当に支援を必要とされている人にも使えるようなサービスにしてもらいたいという意見が出ました。あとは、ファミリーサポートという制度があるのですが、サポートを受けてどうだったかフィードバックをしなければならないなど、若干使い辛い部分があるので、もっと気軽に使いやすいような制度にってもらいたいという意見が出ました。また、こういう良いサービスがあるのですが、市民が知らないということが多くあるので、うまく市民が情報をキャッチできるように情報発信をしてほしいと思っています。

■F グループ（重点課題 2. 若者世代・子育て世代が幸せに暮らせるまちの基盤づくり）

⑤駅周辺の再整備・再構築によるまちの個性と魅力の創出

⑥多様な働き方を実現するための環境整備

まず、「駅周辺の再整備・再構築によるまちの個性と魅力の創出」のために何ができるかを考えました。最初に、魅力的なものを建てれば良いのではないかと、極めて具体的な意見として出ました。また、若者が好むような飲食店を集めるというのも良いのではないかと意見もありました。ただ途中から、そもそも魅力的なものを建てたとしても、駅周辺からのアクセスがあまり良くないのではないかと、それを解決する必要があるという意見も出ました。例えば、自転車が利用できるように川沿いに自転車の専用道路をつくることや、駅から離れた場所からアクセスしやすくするためにバスを増やしたりすることが良いのではないかと意見が出ました。一方で私たちができることは何かということで、多摩市では多摩センターなどがドラマや映画の撮影などで使われていることが市の広報からも紹介されているということで、そこをもっと私たち市民がアピールしていければ魅力的なまちというものを発信できるのではないかと考えました。あと、今は廃止されてしまっているのですが、関戸で開催されていた花火大会の復活は、市の魅力を復活させるためにも良いのではないかと、ということでした。

「多様な働き方を実現するための環境整備」については、多様な働き方を実現するためには、働くところがないといけないので、企業誘致や年齢に関わらず働きやすい環境を整備することが必要なのではないかという意見が出ました。また、サテライトオフィスやテレワークのできるような仕組みを用意することが環境の整

備として必要だという意見が出ています。あとは、多摩市民の方でできるスタートアップや多様な働き方を支援できるようなサービスの提供も必要だという意見も出ています。

■G グループ（重点課題 3. 市民・地域と行政との新たな協働のしくみづくり）

①地域活動を市が後押しするためのしくみづくり

②だれもが地域活動に参画できる環境整備

「地域活動を市が後押しするためのしくみづくり」と「だれもが地域活動に参画できる環境整備」ということで、市が地域活動を後押しするというポイントと、誰もが参画できるにはというポイントなのですが、明確に分けることが難しかったです。地域活動といった時に、**具体的に私たちが何を頭に浮かべたか**というと、**一つには自治会などもあります**が、何ができるのか、何をやりたいのか、何をしてほしいのかを伝える方法がまだまだできていないのではないかと、後押しする以前の告知ができていないのではないかとという視点が非常に強かったと思います。例えば、ボランティア活動をするということでも、どんなことができるのか、私はこういうことがしたい、といった時に、どこに行ったら良いのか、誰に相談したら良いのかよく分からないということがありますので、そこら辺をもっと教えてほしい、知りたい、あるいは発信したいということ、このご時勢ですから IOT ということで、「インターネットオブ多摩」ということで、そういった仕組みができれば良いのではないかと考えています。今までのたま広報も非常に良い広報誌なのですが、それに加えて、インターネットや SNS を使ったらもっと簡単にやりたい、手伝ってほしい情報が集まるのではないかと意見が、「後押しをするインフラづくり」が大事なのではないかと、といったところでよく出ていました。その中で、やはり市の取組が見えるようにしてほしいといったような意見もありました。

また、「だれもが地域活動に参画できる環境整備」というところでは、だれもができる地域活動は何だろうかと、ということで、例えば、働きながら、とか子育てをしながら、など、色々な活動ができればということがありまして、**ボランティアで保育所をやってほしい**などの意見も出ているのですが、やはり、どうやって関わったらよいかを知りたいという意見が多く出ていました。あとは、多摩市民の中には**現役をリタイアされた世代もいるので、その方々にも色々と手伝ってもらえるのではないかと**というような意見も出ていました。

■H グループ（重点課題 3. 市民・地域と行政との新たな協働のしくみづくり）

③「だれもが支え手」の地域づくり

④地域防災・防犯活動を通じた結びつきの強化

結論としては、市に期待してはだめ、自分たち一人一人が頑張らないとだめだ、というニュアンスがこの重要課題に込められているということを認識して、**市民が覚悟することが大事だ**ということです。それから、**地域をお互い知る必要があります**。戸建て住宅でも隣を知らない、関わらないということがあります。もっと結びつきを強くするために、自分たちでどうしたら良いのかを考えなければなりません。例えば、地域のハロウィンで「ハロウィンなんて面白くもない、西洋の変な仮面をかぶって！」等というのではなく、**高齢者が子どもにお菓子をあげる**ということで結びつきができてきているということが全国でもあります。それを見て地域の推進委員会で**昨年ハロウィンイベントを初めて開催したところ皆さん非常に喜んでおり、結びつきができたと感じました**。仮面を被っておかしなことをする、と一概に否定するのではなく、良いではないか、と肯定的に捉えてもよいのではないのでしょうか。それから、大掃除も良い取り組みだと思います。大掃除もあまり行われていないと思います。建物の所有形態によって違うところはあると思います。賃貸マンションはあまり実施していない一方、購入マンションは長く住むから大掃除しようという意識があるように思いますが、それについては、公団

などに大掃除をやりますよといった指導をしてもらってはどうか。今、多摩市で「大掃除デー」などを設けていますが、実際に実施しているのかどうか、見ていないのではないのでしょうか。この地域はあまり実施されていないようだ、とか、実施してみてもいいのでしょうか、とか、大掃除は良いものですよ、など、上から目線ではなく呼びかけを行ってもいいのではないのでしょうか。私は**大掃除を経験して地域を知ること**を感じています。あとは、**挨拶運動も同じです**。小学校でも運動が実施されていますが、挨拶運動期間が過ぎたら子どもは挨拶をしなくなっています。それを怒るのではなく、**住民は気付いたら挨拶したら良い**のではないのでしょうか。サイクルを回していけば良いのではないかといいところ。それから、非常に有効な手段として焚き火があります。以前、ダイオキシンを出すから良くない、など色々な噂があって最近では減っていますが、焚き火は暖かい火を囲んで地域の人が喋る良い機会です。それを復活したいと昔から思っていたところ、グループ内に意見が合う人がいました。この間テレビで、実は市では禁止はしていないという話も見たのですが、どうなのでしょう。自ら村度して取りやめているのではないかと、ダイオキシンは実は出てこないのではないのでしょうか。ダイオキシンの弊害よりも地域のコミュニティに与える良い影響の方が大きいのであれば、多摩市で条例を作り、焚き火復活運動をしても良いのではないかと考えました。例えば、公園で炊き出し訓練をやろうと思ったら使用許可が出ていないからできないということがありました。せっかく新しい公園にかまどを設置することが出来たという話を聞いたのですが、焚き火は禁止だそうです。市で条例があれば、いつでも自由に焚き火が出来るといった形にできて良いのかなと思います。

■I グループ（重点課題 3. 市民・地域と行政との新たな協働のしくみづくり）

⑤多様性を尊重し、だれもがいきいきと活躍できるまちづくりの推進

⑥現役世代の声を地域に活かすしくみづくり

テーマの一つ目「多様性を尊重し、だれもがいきいきと活躍できるまちづくりの推進」は、すごいテーマだと思いました。二つ目のテーマは、「現役世代の声を地域に活かすしくみづくり」です。

個々の意見を紹介する前に、最後の発表として言えることは、実はこのテーマに近い内容は他のグループが発表した内容で全て触れられていると思います。ただ、ここに出てきたのは、外国人の方とか世代が違う、など色々あります。それも受け入れていかないといけません。例えばオリンピックもありますし、サンリオピューロランドなどはキティちゃんの聖地ですから、色々な方がいらっしやると思います。そういった方の受け入れもありますし、働いている方が現役世代と考えたら、現役世代の方は都心の方に通勤することが多いですが、主婦も学生も高齢者も何らかの現役なのです。それを活かせる仕組みづくりというのは必要だと思うのですが、みなさんおっしゃったように、実際に「ゼロ」ではなく、全部「一」まではスタートしているのだと思います。コミュニティ館もありますし、図書館も新しくなり、パルテノン多摩も改修されます。一とか二とか、一歩、二歩は踏み出しているの、それを活用した方が実績があるのではないかと、というカードにはない声を感じました。ですから、外国の方も受け入れますし、主婦の方も、学生の方も、高齢者の方も現役なのです。何らかのチャンスを得て情報を発信されている方、**情報を受ける方がけっこういらっしやるので、何から得るかというその一歩さえ踏み出せば**もう少し大きなテーマだけでなく、自分の中の多様性を活かして、現役で活躍ができるまちになれるのではないかと感じました。

以上

(参考:当日の様子)

